

JAグループ広島東日本大震災支援隊


第2班（福島県）支援活動～絆～情報

平成25年9月27日
情報No.3

農業協同組合 御中
農業協同組合連合会 御中

JAグループ広島東日本大震災復興・再建対策本部
(JA広島中央会 総務部)

支援活動状況について

活動日	平成25年9月26日（木）	天気	曇り 時々 雨
活動場所	活動概要のとおり		
活動概要	<p>東日本大震災たすけあい運動支援隊第2班の支援活動最終日となる3日目の朝は、台風20号の影響により小雨の朝となった。</p> <p>支援活動最終日は、JA東部地区管内の野菜農家支援を行い、その後、津波被害の大きかった相馬方面への視察を行った。</p> <p>概要は次のとおり。</p> <p>（1）農家支援</p> <p>支援隊を4班に分け、4軒の野菜農家で農作業支援を行った。</p> <p>作業内容は、ハウス栽培のキュウリから余分な葉を取り除く作業を中心に行い、その他、ミニトマトの摘芽作業などを行った。</p>		
			



休憩時には、農家の方と野菜農家の現状や東日本大震災当時の状況など、貴重なお話を伺うことができた。

東日本大震災の地震が今までの地震と大きく異なっていたのは、大きな揺れが3回程度感じられ、とにかく揺れている時間が長かった、とある農家は語られた。農作業支援に伺った地域は津波被害もなく、地震による被害もそれほど大きなものではなかったが、原発事故による放射能漏れを恐れ、特に若い世代が次々と他県へ転居していったとのこと。

農家支援は11時で終了し、支援隊は相馬方面の視察に向かった。

(2) 相馬方面視察

相馬方面の視察は、先週、支援活動に訪れていた支援隊第1班からの、実際の津波被災地を見たかったとの声をもとに、JA新ふくしまの厚意により急遽スケジュール変更していただいた。

JA新ふくしまの佐藤部長ならびに(株)新ふくしまファームの石橋専務に同乗していただき、支援隊を乗せたバスは、一路相馬方面へ向かった。石橋専務は、相馬の出身とのこと、当時の風景の変貌ぶりについて詳しく説明いただいた。

南相馬市の海岸へ近付くにつれ、日常目にする光景とは全く別の世界が広がっていた。以前は水田であったであろう野原に巨大なクレーンが横倒しになり、乗用車やトラクターも無残な状態で放置されていた。廃棄物がいくつも積み上げられ、廃棄処理を待っており、海岸が見えないくらい植えられていた防風林(松)は、ほとんどが消失していた。防波堤さえも一部が破壊され、台風の影響で荒れる白波が離れたバスの中からも確認できるほどだった。

支援隊活動3日目の相馬地域の視察は、支援隊員にとって衝撃的であった。福島県は原発事故による放射能被害ばかりが目についていたが、岩手、宮城と同様に、これほどの津波被害を受けており、そこに放射能漏れが加わり、二重の苦しみにさらされていることを痛感した。しかも、放射能汚染は、立入禁止区域を生じさせ、当地区の復興さえも阻害している。

3日間の支援活動で体験したこれらの強烈な経験を、今後、各人が地元に戻り、周りに伝え、支援の輪をさらに大きく広げていかなければならない、と支援隊員はそれぞれの心にしっかりと刻み込んだ。

最後に、支援隊を快く受け入れていただいたJA新ふくしま（株）新ふくしまファーム、JA組合員の皆様、支援隊を派遣いただいたJAグループ広島の派遣団体皆様へ厚くお礼申しあげるとともに、支援隊員全員が無事に帰路につくことを報告する。



【平成25年度 東日本大震災たすけあい運動支援隊第2班集合写真】